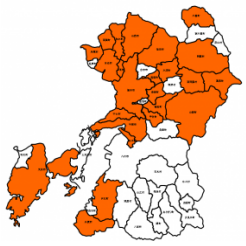
「外来種アライグマによる熊本の被害の現状と対策法」

鹿本高校

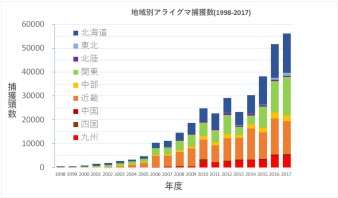
要旨
近年、九州のアライグマ増加は深刻なものになっている。九州では2009年の捕獲頭数1000頭未満と比べて、2017年では5000頭以上と明らかに増加している。そこで熊本の被害対策を調べれば、九州全体の被害減少につながるのではないかという仮説を立てた。

研究背景

熊本県アライグマ分布図〈令和四年九月現在〉



（引用:熊本県環境生活部自然保護課）



（引用:日本のアライグマの実態-捕獲数の傾向のまとめ-アライグマ備忘録）

被害の現状

近年、九州のアライグマ増加は深刻なものになっている。九州では2009年の捕獲頭数1000頭未満と比べて、2017年では5000頭以上と明らかに増加している。

九州でアライグマが増加する要因は一般的には「アライグマの脅威的な繁殖力」や「天敵の少なさ」や「適応力の高さ」などがある。
しかし、アライグマの増加は重大な問題である。全国的にアライグマの減少が止まっておらずさらなる増加が危惧されている状況である。アライグマは大きく4つの問題を引き起こし、私達の生活に支障をきたしている。1,「農業被害」2,「生活被害」3,「感染症の媒介」4,「在来種の捕食」。熊本市では勉強会や講習会、生息状況調査が行われている。

令和四年八月、熊本県におけるアライグマの捕獲数は**93頭**、山鹿市で**25頭**になる。
農業被害、生活被害、人を襲う、在来種の捕食
雑食性のため、様々な農作物が被害にあう。
手が器用なので、スイカなどの皮に小さな 穴を開けて中身だけ食べたり、トウモロコシの 皮をむいて食べたりと、アライグマに特徴的な 食害形態がみられる。 その他にも、ニワトリを食べたりする畜産業 被害、養漁場で魚を食べたりする漁業被害もある。
【写真出典】:「アライグマ防除の手引(計画的な防除の進め方）」

スイカ

トウモロコシ

（平成23年3月 環境省自然環境局 野生生物課 外来生物対策室）

肉類もよく食べ、鶏程度の大きさなら獲物と判断し家畜やペットが襲われたという事例も後をたたない。
アライグマはあまり警戒心がなく、人間の近くまで平気でやってくる。
人間の住む家の屋根裏に住み着くこともある。屋根裏に住み着かれると、そこで糞尿をされ、その糞尿が悪臭の原因となったり、アライグマが天井を走り回り、天井板が破損したり、腐食したりと、様々な被害が出ることが考えられる。

人間にも害を与え、国内の固有生態系に関しても大きな影響を与えるアライグマは「特定外来生物」に指定されている。
日本国内におけるアライグマの食害による農業被害総額は3～4億円と非常に深刻な状況になっている。
しかも、五年以上の間に被害額が三億円を超えており、深刻な問題となっている。　（引用:熊本シロアリ駆除.com【専門家監修】アライグマが起こす深刻な農業被害について）

以上のような現状を打破し、アライグマの被害の少ない住みやすい熊本市づくりに携わりたいと考えたことが研究の動機である。

研究方法

アライグマの被害対策を効果的に進めるためには、「食」への対応が基本となる。
「食」は、増加の手助けをしている餌を与えないということ。収穫と収入を目的として作付けされている収穫前の農作物は「食べたら怒られる！」もの。これらは被害管理への意識が高く対策もとられているが、集落の中には無意識のうちに餌となっている食べ物「食べても怒られない！」ものが多く存在している。
無防備な田畑や果樹園、収穫残渣や廃棄果樹、生ゴミ置き場などが地域に年間を通じて餌には困らない魅力的な場所が作られている。また、最近では遊休農地対策などとして増加している市民農園も多くの餌を提供する場所となっている。「食べものがあるから動物が来る。食べ物があるから動物が増える。」当たり前のことだが対策を行うにあたって再認識しなければならないこと。
熊本県の対策は、アライグマの防除方法を説明する動画の作成、アライグマの特徴・外来生物法・アライグマの防除の方法等についてまとめたパワーポイント、生息状況調査等がある。

研究手法

・他の地域の取り組みを調べる
・自分の地域の取り組みを調べる

結果・考察

アライグマは、北アメリカ大陸原産の中型の哺乳類。ペットや動物園での展示のため日本に持ち込まれる。しかし力の強さや気性の荒さから、ペットとして飼われていたものが捨てられたり、逃げだしたりすることも多く、それが野生化し、日本各地で繁殖している。
雑食性で、農作物を加害するほか、人や家畜との共通感染症を蔓延させる恐れや、希少な在来の生物を捕食する等、生態系への被害も懸念される。
捕獲されたアライグマは、捕獲用のゲージごと用水路やため池などに沈めて水死させたり、食物や水を与えず衰弱死させたりしていた。7月下旬以降は、二酸化炭素を送り込んで窒息死させる方法に切り替えた。
〈アライグマの繁殖力〉
アライグマの繁殖力はとても高く、死ぬまで子供を生み続ける。1歳のアライグマの妊娠率は60%で、2歳以降の妊娠率はほぼ100%に近い
妊娠期間は54~70日一回の出産で3～6頭産み、2年で成熟する
日本には猛禽類等の天敵がいないため、人間が捕まえない限りは増えていく
何も対策せずに放置しておくと6年後には1000頭、10年後には5000頭、12年後には10000頭･･･と増えていく

今後の展望

今回の研究を通して、「地域の人のアライグマ被害が減るように」を目指して、アライグマの生態を調べたら被害が減るのではないかという仮説をもとに研究を進めた。今後の展望としてはまだまだアライグマが外来種で凶暴な性格ということを知らない人が多いため、講習などでどんどん知る人が増えれば被害が減るのではないかと考えた。

引用文献・参考文献
害獣アライグマの生態と農業への被害について。可愛いからと言って触らないで！2017年3月22日
https://www.kaku-ichi.co.jp/media/wildlife/raccoon#:~:text=%E3%81%A8%E3%81%84%E3%81%86%E3%81%93%E3%81%A8%E3%81%A7%E3%81%99%E3%80%82-%E3%83%BB%E7%B9%81%E6%AE%96%E5%8A%9B.%E5%A2%97%E3%81%88%E3%81%A6%E3%81%84%E3%81%8F%E4%B8%80%E6%96%B9%E3%81%A7%E3%81%99%E3%80%82
朝日新聞アライグマ殺処分、現場の苦悩「何度やっても心が痛む」2020年7月18日https://www.asahi.com/articles/ASN7K3GR0N7BUHNB006.html
熊本シロアリ駆除. com知っておくべきアライグマの繁殖力を専門家が解説！2022年8月11日
https://www.xn--cckyb8ika7450e78m704d6wf.com/%E7%9F%A5%E3%81%A3%E3%81%A6%E3%81%8A%E3%81%8F%E3%81%B9%E3%81%8D%E3%82%A2%E3%83%A9%E3%82%A4%E3%82%B0%E3%83%9E%E3%81%AE%E7%B9%81%E6%AE%96%E5%8A%9B%E3%82%92%E5%B0%82%E9%96%80%E5%AE%B6%E3%81%8C%E8%A7%A3/
熊本県環境生活部自然保護課　https://www.pref.kumamoto.jp/soshiki/52/50818.html
日本のアライグマの実態-捕獲数の傾向のまとめ-アライグマ備忘録）
https://satoyaman-raccoon.hatenablog.com/entry/2021/08/15/%E6%97%A5%E6%9C%AC%E3%81%AE%E3%82%A2%E3%83%A9%E3%82%A4%E3%82%B0%E3%83%9E%E3%81%AE%E5%AE%9F%E6%85%8B-%E6%8D%95%E7%8D%B2%E6%95%B0%E3%81%AE%E5%82%BE%E5%90%91%E3%81%AE%E3%81%BE%E3%81%A8%E3%82%81-
アライグマ防除の手引(計画的な防除の進め方）https://www.env.go.jp/nature/intro/3control/files/manual_racoon.pdf